

につけた。

考察 背受け、坐受け、下腿受けの調節が可能であるため、臥位、坐位のいずれの体位でも移動できる。尚ベットの高さに昇降させることにより、患児（者）にいざる能力があれば移動でき、又、動けない患児（者）でもシートを利用し、簡単に移すことができるので、抱きかかえが軽減される。排泄時腰かけは、スポンジ入りのため感触よく、るいそう著しい患児（者）でも安楽に使用できる。運搬の際には、ベルトを用いるので、患児（者）の落下を防ぐことができる。チエアユニットについては、改良することにより、ある程度の成果を得ることができたが、今後、昇降手動式、並びに移動部等について、検討、改良中である。

14) P M D 装 具 に 関 す る 研 究

1) 軀幹装具の改良

2) 下肢装具の改良

徳島大学・愛媛大学・徳島療養所

新 家 豊 野 島 元 雄
西 庄 武 彦 奥 村 建 明

軀幹変形に対して、また、下肢変形、歩行能力維持のために従来から装具療法を実施してきた。今回、これら装具について過去の使用経験にもとづき、新しい材質の導入と多少の改良を行っている。その成果の一端を報告する。

I 軀幹装具について

脊柱変形の研究と関連して側弯の予防、増悪阻止のため車椅子患者に対しての脊柱変形矯正装具を発表し応用してきた。(図1) 今回、ベット上での患者に適した脊柱変形矯正装具を試作した。(図2) その特徴は金属フレームと軟いプラスチックで作り、軀幹保持部分と大腿部に分れていて、軀幹の背屈角度は調節式とし、股関節は開排、上下を自在とする機構として自由な坐位矯正保持機構をとることができる。

採型は作図式で行う。軽量で、取扱いは簡易である。後弯、中等度側弯の矯正が可能であり、その発上防止に有効である。患者の苦痛もなく長期装着しADLの向上に役立つものである。しかし、高度側弯、前弯変形の一ついものには適応とは考えられない。

II 下肢装具について

従来のバネは長下肢装具の原則に従って、新しい装具材料による改良を行った。(図3) その特徴はプラスチックのオルソレンを用い、足関節の90°後方制動関節に代えた、膝継手にUCLA型関節を用いバネを短くコンパクトにした。支柱金属はオルソレンと直結し、靴型装具でなく、運動靴

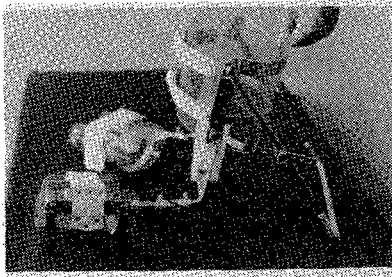
がはけることになった。

全体の重量は従来のものが1.5 kg、改良型は1.1 kgとなった。起立支持性は極めて良好で歩行も容易である。ただ、歩行能力の限界について筋力との関係を更に追試し普及をはかっていきたいと思っている。

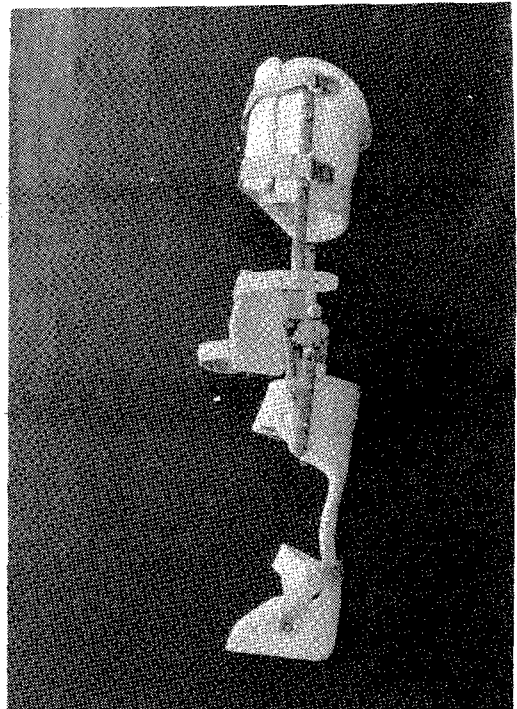


(1) 脊柱変形矯正装具（車椅子用）

(2) 脊柱変形矯正用具（ベッド上用）



(3) 改良長下肢装具



↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

嘔幹変形に対して、また、下肢変形、歩行能力維持のために従来から装具療法を実施してきた。

今回、これら装具について過去の使用経験にもとづき、新しい材質の導入と多少の改良を行っている。その成果の一端を報告する。